

観戦記

2014年7月8・9日（火・水）

第5期王位戦七番勝負、第1局は石川県輪島市「輪島温泉 八汐」で対局。

前日の新聞記事を見て、血が騒いだ。見に行けるぞ！よし。見に行くぞ！
だが、実際出かけるまでは、随分と逡巡した。

羽生王位4冠と挑戦者木村八段（両者当時）の対局。両者の大ファン。当然、両者に勝ってもらいたい。両者とも自分より年下。何やっつんだ俺の心境だ。未だかつて、両対局者同時に勝ちの事例は無いし、今後もあり得ない。必ずどちらかが負けになる。羽生王位には再度の七冠を、木村八段には初の栄冠をファンとして望むが、勝負は厳しい。両者のファンにとってはどちらかが負けになることは、たとえ第1局であっても、とても辛い。

その両者が地元石川で対局。この機会は一生に一度有るか無いか。絶好の機会ではないか。この燃料代高騰の折、片道2時間強。涼しい自宅でネット中継を見てればよい。の悪魔の囁きもあった。ここは観戦の一手。後悔先に立たず。二度とこの機会は無いかもしれない。が、仕事か？何の為の仕事か？誰のための仕事か？仕事の為の仕事か？経営者として当然やるべき仕事は山の様にあるし、それらを整理し順序立て、一つずつ解決すべきであろうが、現状は目の前の何かを手当たり次第片づけている（やっつけ仕事）と表現するのが適切な状況である。忙中閑あり。暇でなく有意義な時間の閑、余裕の閑、受動的ではなく、こちらから積極的に取りに行く閑。と自分自身に言い聞かせた。

そうだ、仕事の一環として、何かのセミナーに参加するのだと解釈すればよいのだ。よくある不毛な経営者セミナーに参加するより、より実践的な経営指針の参考として、やるべき勉強の一つ、かつ必聴の講義であるとして位置付け、参加することに相当意義のある価値の高いセミナーである。行くべし。と、いてもたってもいられず、観戦に出勤した。

勝負の内容、結果については、それらを語る資格も棋力もないことにより、割愛する。HP等で確認されたい。「将棋 王位戦」で検索から始めると必ず至るのでは。

対局終了直後、大盤解説会場に両対局者お目見え。会場各位の衷心より厚い（熱い）拍手。勝者の一言に拍手。敗者の一言に拍手。疲労困憊の両者に心からの労いの拍手。感想戦へと戻る両者に感謝の拍手。惜しめない拍手がこの熱戦に、そして両者に敬意を。

目頭が熱くなった。観戦に出勤参加し大正解であった。何かは分らないが力をもらったような気がするし、勇気が湧いてきた。よし、俺もガンバルぞと素直に思った。

大盤解説の次の一手（88手目）。もしこのタイミングで、△6九銀（打）だとどうなったのか知りたい。まだ早いのか？結果は同じか？どなたか先生ご教授ください。